

【2009 和鉄の道】 初秋の青森・秋田風来坊 【2】

秋田県中央 マタギの里「森吉山」WALK と 縄文の環状列石「鷹巣 伊勢堂岱遺跡」を訪ねる



石森より森吉山への縄文跡 2009.9.6



森の森吉山 2009.9.6

阿仁マタギの里秋田の名山

高さ 1454m の森吉山



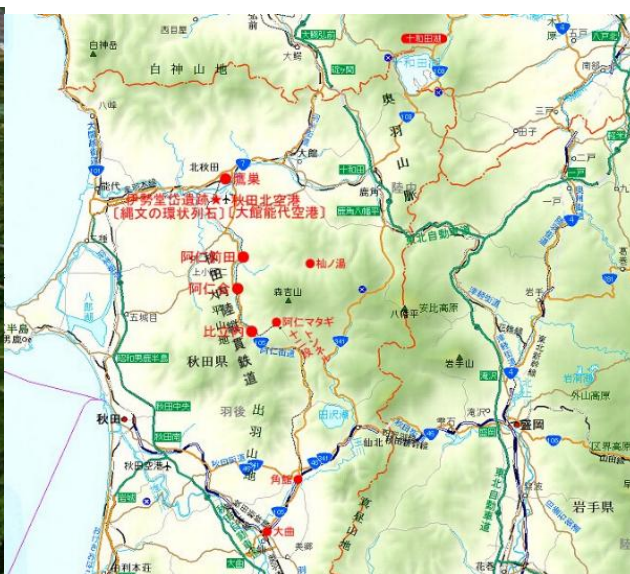
縄文の環状列石 鷹巣 伊勢堂岱遺跡

11-1	またぎの里 阿仁 リンドウの花満開の森吉山ハイク	2009.9.6
11-2	鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪	2009.9.7

9月6日早朝 6時04分青森発の奥羽本線特急に乗って秋田県鷹巣へ。

1時間30分ほどで鷹巣に到着。青森からは意外と近い。

今回は鷹巣から秋田県中央奥羽山脈の山間を走り抜ける秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里阿仁に分け入り、秋田県中央に聳えるマタギの山森吉山に登る。翌日は鷹巣へ戻って9年前の2000年の秋に訪ねたことがある縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡を訪ね、すぐ傍に位置する秋田北空港から帰りもシルバー割引を使って大阪へ帰る予定。



秋田県の中央部 秋田内陸縦貫鉄道が走る 鷹巣・阿仁地域 概略図

森吉山周辺阿仁地方は奥羽山脈の一番山深いところでマタギの暮らしが最後まで残った所として知られ、また、山麓には古くから栄えた阿仁銀・銅山がある秋田鉱物帯の中心部でもある。古くは「秋田山」とも呼ばれ、この地方の人たちの信仰を集めた山。

日本百名山を記した深田久弥が「この秋田の名山を百名山の一峰に入れたかったが、基準とした1500mに46m足らず、入れることが出来なかった」との話が伝わる秋田県の中央に独立峰としてどっかり座る名峰。花の山としてよく知られ、山麓の溪谷には美しい滝群があることでも知られるが、交通の便が悪く、情報もあまりなく行ってみないと判らない。

インターネットほか何を見てもアクセスが悪いと書かれている。そんな奥深い奥羽山脈の山奥を秋田内陸縦貫鉄道が、森吉山山塊をトンネルで潜り抜けて、北の鷹巣から南の角館までをつないでいる。この秋田内陸縦貫鉄道に乗るのも魅力のひとつである。

インターネットで調べるとラッキーなことに「9月は日曜日のみ森吉山の稜線へ登る阿仁 Gondola が動いている」と書いてあるので阿仁合駅で降りて、このゴンドラに乗れば楽チンで頂上へ行ける。通常の一般ルートは阿仁前田駅からタクシーを飛ばして山の北側のこめつが山荘登山口から尾根筋を上らねばならず、また、帰りも迎えに来てもらわないといけないという。森吉山東麓桃洞滝にも行きたいが、そちらもタクシーを事前に往復予約する必要がある、今回は森吉山に登ることを第一に。

いつもの事ながら風来坊 行けば何とかなるだろうと。

でも行ってみて、稜線ハイクの楽しさとともに、山の感じ以上に山深く、車がないと本当に動けぬこと また、タクシーもおいそれと頼めないことなど、森吉山の大きさを後で知りました。

まだ、昨日の三内丸山遺跡での「縄文のお月見」の余韻が残っているが、大鰐そして碓ヶ関を越えると秋田県。山間を縫って下ると能代へ注ぐ米代川の中流の盆地大館そして次に鷹巣に着く。青森からは約1.5時間。以外にも青森からは日帰り圏で行けるのにびっくりです。鷹巣は周囲の町を合併して現在は北秋田市という。

また、市街地のすぐ南の丘陵に秋田北空港(大館・能代空港)があり、東京・大阪それぞれ1往復づつの便がある。



秋田北(大館・能代)空港

日曜日であり、森吉山に出かける人も多いだろうと思っていましたが、やっぱりシーズンオフ 鷹巣から秋田内陸鉄道に乗り継いだのは 以外にも数名。本当に阿仁ゴンドラは動いているのか心配になって、運転士さんに聞くがわからないという。

もう一組 阿仁前田から桃洞滝へ行く人と乗り合わせたが、やっぱりタクシーを頼めないとあせっている。途中で運転士さんが連絡照会してくれて 阿仁ゴンドラが動いていることを確認してくれて 阿仁合駅から阿仁ゴンドラで森吉山へ登ることにする。

あわよくば、そのまま森吉山東麓桃洞滝の方面へくだれれば・・・と淡い期待も持ちました。〔結局ダメでしたが・・・〕



阿仁の山間を流れる阿仁川



鷹巣駅と秋田内陸縦貫鉄道路線



森吉山の登山口阿仁合駅

米代川に注ぐ阿仁川沿いから森吉山を抜けて角館へ 秋田中央部を南北に走る秋田内陸縦貫鉄道 2009.9.6.

青森・秋田の県境を抜ける時には朝霧で真っ白でしたが、鷹巣からは真っ青の快晴。素晴らしい山歩き日和。

これはラッキー。気分も浮き浮きである。

鷹巣駅をですぐに米代川を渡って伊勢堂岱遺跡の丘の横を通り抜けて南へ森吉山から流れ下る阿仁川沿いを鷹巣の盆地から山間をさかのぼって約1時間で森吉山西麓 阿仁川の左岸段丘の上三角屋根の阿仁合駅に到着。駅へ入るすぐ手前に鉱石屑が山積みされているのが見えたが、かつての阿仁銀銅山の中心地である。マタギの里「阿仁地方」。

どんな奥深い山中に秋田内陸縦貫鉄道が分け入るのかと思っていましたが、案外明るい山間の阿仁川を遡ってきたのにちょっと拍子抜け。もっともこの駅からさらに阿仁川を遡って。森吉山をトンネルで抜けて角館に出るので、阿仁合駅から先の方が陰しいのだろう。日曜日の朝 駅前も閑散 一度着たかった阿仁に居ることがうれしい。

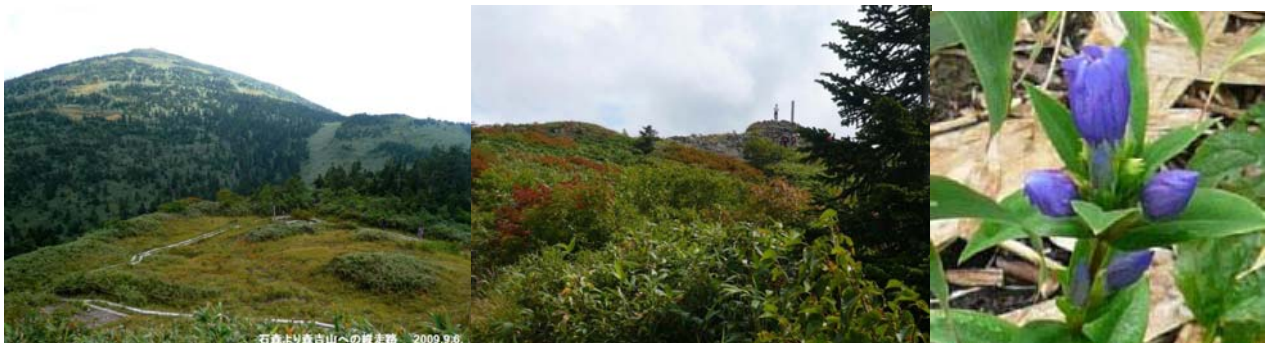
観光案内所で森吉山の登山情報や宿の情報を仕入れて出発。花のシーズンはずれと思っていましたが、今森吉山の稜線の登山ルートはリンドウの花が満開だと教えてもらって、うれしくなる。

6日 リンドウの花満開のまたぎの里阿仁 森吉山ハイク

7日 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪

を写真記録 PDF アルバムに纏めました。

11-1. またぎの里 阿仁 リンドウの花満開の森吉山ハイク 2009.9.6.



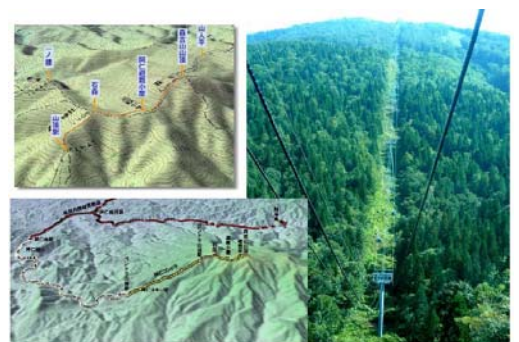
阿仁合駅⇄阿仁ゴンドラ⇄石森⇄森吉山山頂 往復

阿仁合駅⇄(連絡バス)⇄阿仁ゴンドラ山麓駅⇄(阿仁ゴンドラ)⇄阿仁ゴンドラ山頂駅⇄石森⇄避難小屋⇄稚児平⇄森吉山

阿仁合駅⇒阿仁前田駅⇒森吉山北麓秘湯マタギの宿杉の湯〔泊〕



駅前から連絡バスで阿仁ゴンドラの山麓駅までかつての阿仁銀山の坑口をつなぐ鉱山道と運転手さんが教えてくれた。乗客は一人。久しぶりの長いゴンドラ。登るに連れ、左から右に伸び稜線の右手になだらかな森吉山の大きな山体が見えだし、山体を覆う素晴らしいブナの大樹林帯林から青森トドマツの大原生林に変わると阿仁ゴンドラの森吉山山頂上駅。少しかすみがかかっていて遠望は利かないが、眼下 阿仁の谷の向こうに北に白神・鳥海 そして中央に 奥羽山脈の峰々の大パノラマ。そして すぐ道脇で青いリンドウの花が出迎えてくれる。





森吉山頂上へと続く稜線尾根の登山道はなだらかなよく整備された登山道。道脇には次々とリンドウの花が出迎えてくれる。こがため山荘からの縦走路と合流する石森の頂上からは残念ながら山の特定はよくできなかったが、東北の名峰が見渡せる 360 度の素晴らしい大パノラマ。そして 前方の大きな森吉山へと続く縦走路が手に取るよう。小さな上り下りはあるがなだらかな稜線歩き。樹林帯にはいりこんだり、湿原をふけたり、展望をたのしんだり、道脇のリンドウほか高山植物の写真を撮ったりの約 1 時間ちよつとの素晴らしい稜線 walk。避難小屋にはクマ出没注意の張り紙が忘れかけていたマタギの山であることを思い起こさせてくれる。頂上周辺はもう紅葉が始まって、ここだけはもう素晴らしい秋。360 度の展望も。頂上部周辺は露出した狭い岩山になっていてハイキングの人たちが鈴なり。頂上三角点を踏んで、周囲の山々の案内板で方向と遠望できる山々を確認して、ひとつ南の小さなピーク岩舟まで行って、地図を広げて 360 度の展望をひとしきり楽しむ。

遠く日本海や 鳥海 岩木山 早池峰の山々まで見えるとあるのですが、快晴ながらかすんでいて、これらの山の同定は出来ませんでした。

頂上から東麓の桃洞渓谷へ下る人を探したのですが、行き当たらず。頂上からそのまま南の阿仁マタギ駅へ下る道は人も少なく長いと聞いて 宿の手配も出来ていなかったの、山上散歩をしながら引き返して、阿仁ゴンドラで阿仁合駅へ。

シーズンオフで 鉱山植物に出会えないとおもっていましたが、幾つも咲く青いリンドウほか 幾つもの高山植物 そして なにはさえておいても 草紅葉が始まった湿原が点在する青森トドマツの原生林 おとぎの森を抜けて行くように思えた素晴らしい山上ハイクでした。



リンドウの花満開の初秋 森吉山ハイク 森吉山頂上で 2009.9.6.

この森吉山のもうひとつの魅力はこの山の周囲の渓谷にかかる幾つかの美しい滝群と紅葉。特に森吉山東麓の桃洞渓谷にかかる桃洞滝へは是非行きたかったのですが、山と滝の両立は車を動かさないと無理のようでした。

阿仁合駅やゴンドラの静かさがウソのように 森吉山山頂や登山道で何人ものハイカーにであいましたが、アクセスが悪いので、自動車登山の人がほとんどのよう。また、登山道で出会った幾人かに山の東側桃洞滝側への道のアクセスを聞くのですが、「熊に出こわすかも知れぬし、林道に降りても 本当に遠いので、車がタクシー頼んでないとやめた方がいい」と言う。

やっぱり 高さは低いのですが、秋田の中央にどっしり構える大きな山であることを再認識。状況がよくわからず、次回です。

また、東北最深部の山 展望が開ける稜線の尾根筋でしたが、僕の携帯ではほとんど通じず。

阿仁合駅の案内所で宿泊やタクシーの電話番号を幾つか聞いていたのですが、ダメでした。

もう一度 今度は滝を見にしようと……。

阿仁合駅の案内所に再度立ち寄って、山麓での宿泊を世話してもらう。

朝案内所で一度色々教えてもらった人たちが親身にあちこち電話してくれて、森吉山東山麓 阿仁前田駅から奥に入った溪流沿いの一軒家 マタギの宿秘湯 杣の湯を紹介してもらい、なんとラッキーなことに 阿仁前田駅まで迎えに来てもらった。

山の宿に泊まって 溪流の音を聞き 地酒を飲みながら山菜と鯉を中心とした山の料理を食べるのも初めて。 ゆったりとマタギの里を感じる一夜でした。



森吉山で見た数々の花

2009.9.6.

11. 秋田県中央マタギの里に登る「森吉山」と縄文のストーンサークル「鷹巣 伊勢堂岱遺跡」を訪ねる



高さ 1454m 秋田の名山 森吉山



縄文の環状列石 伊勢堂岱遺跡



9月6日早朝6時04分青森発の奥羽本線特急に乗って秋田県鷹巣へ。1時間30分ほどで鷹巣に到着。青森からは意外と近い。

今回は鷹巣から秋田県中央奥羽山脈の山間を走り抜ける秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里阿仁に分け入り、秋田県中央に聳えるマタギの山森吉山に登る。翌日鷹巣へ戻って7年前の2000年の秋に訪ねたことがある縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡を訪ね、すぐ傍に位置する秋田北空港から帰りもシルバー割引を使って大阪へ帰る予定。

森吉山周辺阿仁地方は奥羽山脈の一番山深いところでマタギの暮らしが最後まで残った所として知られ、また、山麓には古くから栄えた阿仁銀・銅山がある秋田鉱物帯の中心部でもある。古くは「秋田山」とも呼ばれた進行の山で、日本百名山を記した深田久弥が「この秋田の名山を百名山の一峰に入れたかったが、基準とした1500mに46m足らず、入ることが出来なかった」と。

交通の便が悪く、情報もあまりなく行ってみないと判らない。花の山としてよく知られ、周囲には美しい滝群があることでも知られるが、何を見てもアクセスが悪いと。

そんな奥深い奥羽山脈の山奥を秋田内陸縦貫鉄道が、森吉山山塊の下をトンネルで潜り抜けて、北の鷹巣から南の角館までをつないでいる。

この秋田内陸縦貫鉄道に乗るのも魅力のひとつである。

インターネットで調べると9月は日曜日のみ 森吉山の稜線へ登る阿仁ゴンドラが動い

ていると書いてあるので 阿仁合駅で降りて、このゴンドラに乗れば楽チンで頂上へ行けるが、そうでないと阿仁前田駅からタクシーを飛ばして 山の北側のこめつが山荘登山口から尾根筋を上らねばならず、また、帰りも迎えに来てもらわないといけないという。森吉山東麓桃洞滝にも行きたいが、それもタクシーを往復事前予約する必要がある、今回は森吉山に登ることを第一にいつもの事ながら風来坊。行けば何とかなるだろうと。でも本当に山の感じ以上に山深く車がないと本当に助けぬこと また、タクシーもおいそれと頼めないことなど、森吉山の大きさを後で知りました。

まだ、昨日の三内丸山遺跡での「縄文のお月見」の余韻が残っているが、大勢そして旋ケ間を越えると秋田県。山間を縫って下ると能代へ注ぐ米代川の中流の盆地大館 そして 次に鷹巣に着く。鷹巣は周囲の町を合併して北秋田市という。

日曜日であり、森吉山に出かける人も多いだろうと思っていましたが、やっぱりシーズンオフ 鷹巣から秋田内陸鉄道に乗り継いだのは数名。本当に阿仁ゴンドラは動いているのか心配になって、運転士さんに聞くがわからないという。もう一組 阿仁前田から桃洞滝へ行く人と乗り合わせたが、やっぱりタクシーを頼めないとあせっている。途中で運転士さんが連絡照会してくれて 阿仁ゴンドラが動いていることを確認してくれて 阿仁合駅から阿仁ゴンドラで森吉山へ登ることにする。あわよくば、そのまま森吉山東麓桃洞滝の方面へくだれば・・・と淡い期待も。[結局ダメでしたが・・・]



鷹巣駅



秋田内陸縦貫鉄道路線



阿仁の山間を流れる阿仁川 森吉山の登山口阿仁合駅



米代川に注ぐ阿仁川沿いを森吉山を抜けて角館へ 秋田中央部を南北に走る秋田内陸縦貫鉄道 2009.9.6.

青森・秋田の県境を抜ける時には朝霧で真っ白でしたが、鷹巣からは真っ青の快晴。素晴らしい山歩き日和。これはラッキー。気分も浮き浮きである。鷹巣駅をでてすぐに米代川を渡って伊勢堂岱遺跡の丘の横を通り抜けて南へ森吉山から流れ下る阿仁川沿いを鷹巣の盆地から山間をさかのぼって約1時間で森吉山西麓 阿仁川の左岸段丘の上三角屋根の阿仁合駅に到着。駅へ入るすぐ手前に鉱石屑が山積みされているのが見えたが、かつての阿仁銀銅山の中心地である。

マタギの里「阿仁地方」。どんな奥深い山中に秋田内陸縦貫鉄道が分け入るのかと思っていましたが、案外明るい山間の阿仁川を渡ってきたのにちょっと拍子抜け。もっともこの駅からさらに阿仁川を渡って、森吉山をトンネルで抜けて角館に出るので、阿仁合駅から先の方が険しいのだろう。日曜日の朝 駅前も閑散 一度着たかった阿仁に居ることがうれしい。

観光案内所で森吉山の登山情報や宿の情報を仕入れて出発。花のシーズンはずれと思っていたのですが、今森吉山の稜線の登山ルートはリンドウの花が満開だと教えてもらって、うれしくなる。

6日 リンドウの花満開のまたぎの里阿仁 森吉山ハイク

7日 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪

を写真記録 PDF アルバムに纏めました。

11-1. リンドウの花満開のまたぎの里阿仁 森吉山ハイク 2009. 9. 6.

阿仁合駅⇄阿仁 Gondola⇄石森⇄森吉山山頂往復

阿仁合駅==（連絡バス）==阿仁 Gondola 山麓駅==（阿仁 Gondola）==

阿仁 Gondola 山麓駅==石森==避難小屋==稚児平==森吉山山頂

阿仁合駅⇄阿仁前田駅⇄森吉山 北山麓秘湯マタギの宿 柚の湯〔泊〕



■ [PDF File] リンドウの花満開の森吉山ハイク

■ [pps スライド] リンドウの花満開の森吉山ハイク

駅前から連絡バスで阿仁 Gondola の山麓駅までかつての阿仁銀山の坑口をつなぐ鉱山道と運転手さんが教えてくれた。乗客は一人。久しぶりの長い Gondola 登るに連れ、左から右に伸び稜線の右手になだらかな森吉山の大きな山体が見えだし、山体を覆う素晴らしいブナの大樹林帯林から青森トドマツの大原生林に変わると阿仁 Gondola の森吉山山頂駅。少しかすみがかかっていて遠望は利かないが、眼下 阿仁の谷の向こうに北に白神・鳥海 そして中央に 奥羽山脈の峰々の大パノラマ。そして すぐ道脇で青いリンドウの花が出迎えてくれる。森吉山山頂上へと続く稜線尾根の登山道はなだらかなよく整備された登山道。

道脇には次々とリンドウの花が出迎えてくれる。こがね山荘からの縦走路と合流する石森の頂上からは残念ながら山の特長はよくできなかったが、東北の名峰が見渡せる 360 度の素晴らしい大パノラマ。そして 前方の大きな森吉山へと続く縦走路が手に取るよう。

小さな上り下りはあるがなだらかな稜線歩き。樹林帯にはいりこんだり、湿原をふけたり、展望をたのしんだり、道脇のリンドウほか高山植物の写真を撮ったりの約 1 時間ちょっとの素晴らしい稜線 walk。避難小屋にはクマ出没注意の張り紙が忘れかけていたマタギの山であることを思い出させてくれる。頂上周辺はもう紅葉が始まって、ここだけはもう素晴らしい秋。360 度の展望も。

頂上部周辺は露出した狭い岩山になっていてハイキングの人たちが鈴なり。頂上三角点を踏んで、周囲の山々の案内板で方向と遠望できる山々を確認して、ひとつ南の小さなピーク岩舟まで行って、地図を広げて 360 度の展望をひとしきり楽しむ。

遠く日本海や 鳥海 岩木山 早池峰の山々まで見えるとあるのですが、快晴ながらすんでいて、これらの山の同定は出来ませんでした。

頂上から東麓の桃洞渓谷へ下る人を探したのですが、行き当たらず。頂上からそのまま南の阿仁マタギ駅へ下る道は人も少なく長いと聞いて宿の手配も出来ていなかったの、山上散歩をしながら引き返して、阿仁 Gondola で阿仁合駅へ。シーズンオフで 降参植物に出会えないとおもっていましたが、幾つも咲く青いリンドウほか 幾つもの高山植物 そして にははさておいても 草紅葉が始まった湿原が点在する青森トドマツの原生林 おとぎの森を抜けて行くように思えた素晴らしい山上ハイクでした。

この森吉山のもうひとつの魅力はこの山の周囲の渓谷にかかる幾つかの美しい滝群と紅葉。

特に森吉山東麓の桃洞渓谷にかかる桃洞滝へは是非行きたかったのですが、山と滝の両立は車を動かさないと無理のようでした。

阿仁合駅や Gondola の静かさがウソのように 森吉山山頂や登山道で何人ものハイカーにであいましたが、アクセスが悪いので、自動車登山の人がほとんどのよう。また、登山道で出会った幾人かに山の東側桃洞滝側への道のアクセスを聞くのですが、「熊に出くわすかも知れぬし、林道に降りても 本当に遠いので、車かタクシー頼んでないとやめた方がいい」と言う。

やっぱり 高さは低いのですが、秋田の中央にどっしり構える大きな山であることを再認識。状況がよくわからず、次回です。

また、東北最南部の山 展望が開ける稜線の尾根筋でしたが、僕の携帯ではほとんど通じず。阿仁合駅の案内所で宿泊やタクシーの電話番号を幾つか聞いていたのですが、ダメでした。

もう一度 今度は滝を見にしようと・・・。

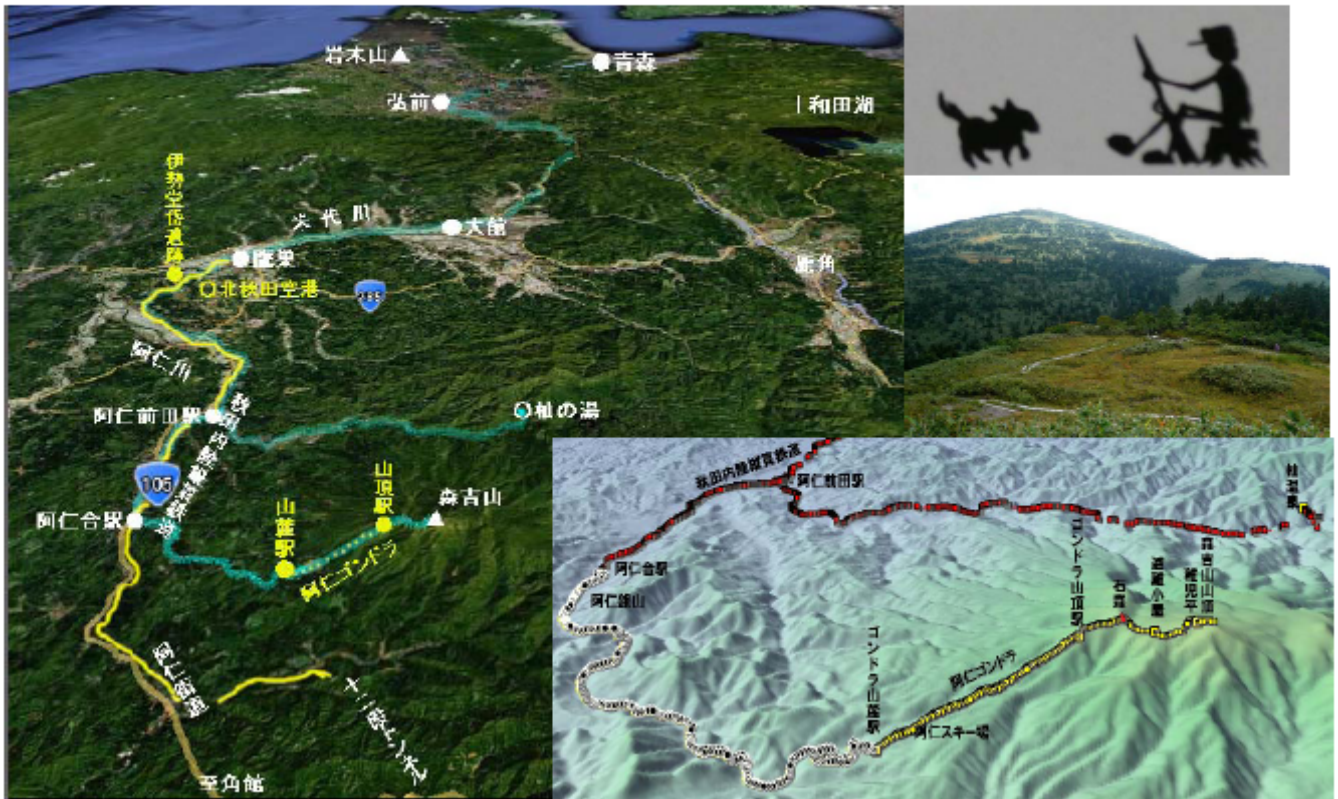
阿仁合駅の案内所に再度立ち寄って、山麓での宿泊を世話してもらう。朝案内所で一度色々教えてもらった人たちが親身にあちこち電話してくれて、森吉山東麓 阿仁前田駅から奥に入った溪流沿いの一軒家 マタギの宿 秘湯 柚の湯を紹介してもらい、なんとラッキーなことに阿仁前田駅まで迎えに来てもらった。山の宿に泊まって 溪流の音を聞き地酒を飲みながら山菜と鮭を中心とした山の料理を食べるのも初めて。ゆったりとマタギの里を感じる一夜でした。



リンドウの花満開の初秋 森吉山ハイク 2009. 9. 6.

秋田県の中央 マタギの里にそびえる花の山 森吉山 2009.9.6.

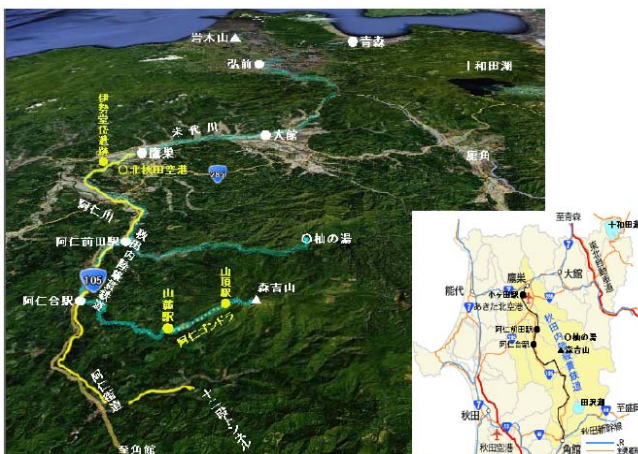
秋田内陸縦貫鉄道が森吉山をトンネルで潜り抜け 鷹巣と角館を結び
行って見ないと何も判らない 朝6時青森発の特急で鷹巣へ あとは風来坊



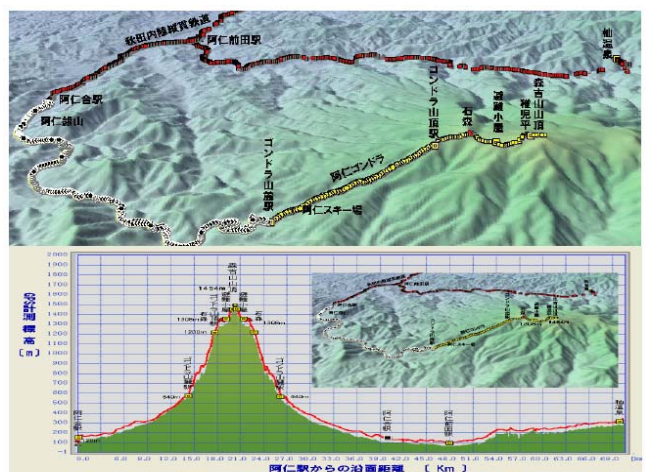
秋田の中央マタギの里にそびえる森吉山 森林限界の上 大きな山体をシラビソが覆う 石森より



花の森吉山 2009.9.6.



秋田 県の中央 マタギの里にそびえる森吉山 周辺図





秋田内陸鉄道 マタギの里 阿仁台駅 2009.9.6.



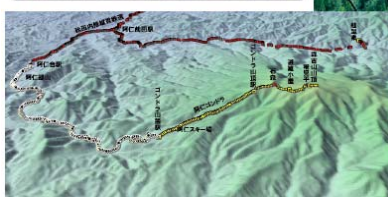
米代川に注ぐ阿仁川沿い森吉山へ向かう秋田内陸縦貫鉄道 2009.9.6.



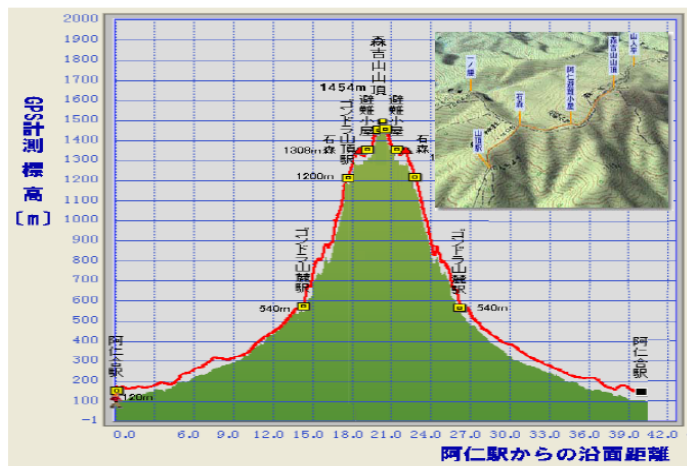
鷹巣から森吉山の下をトンネルで潜り抜けて角館へ向かう秋田内陸縦貫鉄道 2009.9.6.



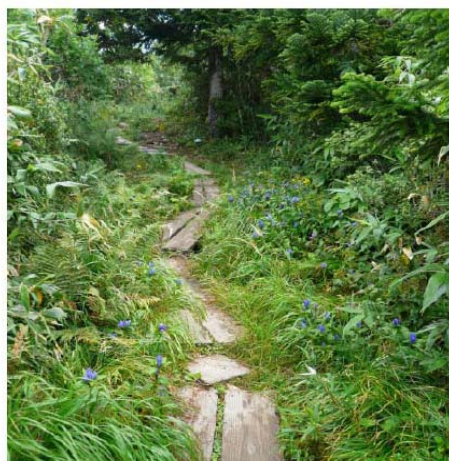
阿仁前田駅周辺からみた森吉山 2009.9.6.



阿仁ゴンドラに乗って 森吉山 山上縦走路ハイク〔往復〕 2009.9.6.



花の山 森吉山はリンドウが真っ盛り 石森より 2009.9.6.



縦割オオヤマリンドウが咲く森吉山縦走路 2009.9.6.

縦割オオヤマリンドウが咲く森吉山縦走路 2009.9.6.



石森周辺 2009.9.6.



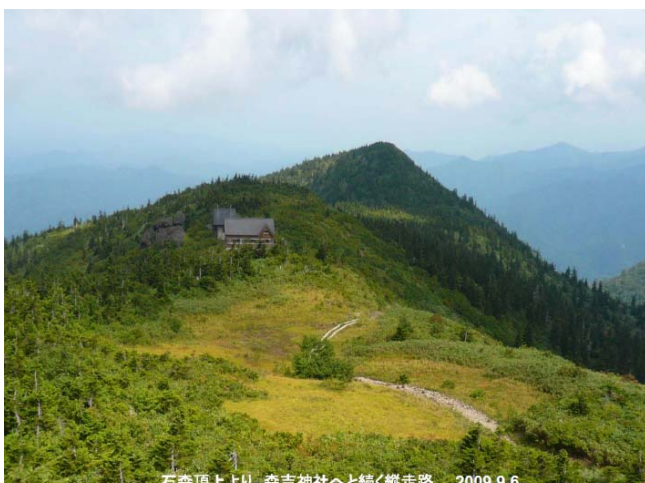
縦走路より森古山



森吉神社と北への縦走路



石森頂上



石森頂上より 森吉神社へと続く縦走路 2009.9.6.



石森より森吉山への縦走路 2009.9.6.



避難小屋周辺 2009.9.6.





稚児平 2009.9.6.



稚児平 2009.9.6.



紅葉はじめた森吉山山頂周辺 2009.9.6.



紅葉はじめた森吉山山頂周辺 2009.9.6.



森吉山からの眺望 北西 白神・岩木山方面



森吉山からの眺望 南から西への縦走路〔1〕
森吉山 - 稚児平 - 避難小屋避難小屋



森吉山からの眺望 南から西への縦走路〔2〕
避難小屋 - 石森 - 森吉神社



森吉山からの眺望 北東から 東へ
正面 ヒバクラ岳への縦走路 背後 鹿角の山並み



森吉山からの眺望 東から南東 岩船
背後 八幡平・秋田駒ヶ岳方面 雲の中



森吉山からの眺望 南 鳥海山方面



森吉山山頂からの360度の展望 2009.9.6.



森吉山からの眺望 今日歩いてきた南西から西への縦走路 2009.9.6



森吉山からの眺望 北東から東へ 正面 ヒバクラ岳 2009.9.6



森吉山からの眺望 北西 白神・岩木山方面



森吉山からの眺望 南 鳥海山方面



森吉山 北山麓の谷間 マタギの湯「杉の湯」 2009.9.6.



森吉山で見た数々の花

2009.9.6.

11-2. 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪 2009.9.7



米代川中流 鷹巣の街の南 河岸段丘の上の岡にある鷹巣 伊勢堂岱遺跡 周辺

右：遺跡を迂回する秋田空港への取り付け道路 中央：背後に秋田内陸縦貫鉄道「小ヶ田駅」

9月7日 早朝 鷹巣の病院へ定期健診に行くと言う宿の主人の車に便乗させてもらって 鷹巣へ
2000年9月に一度訪れた縄文のストーンサークル 鷹巣 伊勢堂岱遺跡を再訪する。



「伊勢堂堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、
あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。

道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、

自分たちの祖先が集うこのような環状列石の墓を築き、折にふれて祭りを行い、

祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。

このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人たちとの絆

それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。

誰も居ない森の中 唯一人立っているとひよいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る」

2000.9.15. 伊勢堂岱遺跡にて

和鉄の道「秋田・青森 縄文のストーンサークル

－ 縄文人の心を考える これも Iron Road ? -」より



北東の鹿角・大館の山間を流れ下ってきた米代川が鷹巣で西へ方向を変えて能代に注ぐ。この鷹巣の市街地や米代川の南の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港の西の米代川が南から北へ流れてきた阿仁川が合流する地点に隣接する河岸段丘の上に伊勢堂岱遺跡がある。この空港開設の取付け道路が作られる過程でこの遺跡が発見され、今も調査が続いている。

ストーンサークル(環状列石C)の周辺を取り囲んで、掘建て柱建物群が出土し、ここで 弔いの祭りを行っていたことを明らかにした遺跡である。

この伊勢堂岱遺跡が、世界遺産登録を目指す遺跡群のひとつとなった昨今さらに何か新しいことがわかったのか 遺跡の周辺はどうなっているのか?? 背の高い樹木に取り囲まれ、静けさの中にあった遺跡、今も その静けさは保たれているのだろうか……?? そんな事が知りたくて、再度鷹巣伊勢堂岱遺跡を訪ねました。

伊勢堂岱遺跡の丘陵地の北端をすり抜けて、秋田内陸縦貫鉄道が走り、すぐ横の平地に「小ヶ田駅」がある。

当初、伊勢堂岱遺跡のある丘陵地を西から横切って東側の丘陵にある空港へまっすぐ取り付け道路が予定されていたが、ストーンサークルの出現で、伊勢堂弟遺跡の丘陵地を横切らず、丘陵地の下を迂回して空港へ向かう道路が完成している。

この道路の完成以外は以前訪れた時のままにのどかな田園風景が広がっている。

遺跡の中も高い樹木に包まれた静かな環境が維持されて以前と変わらず、気持ちの安らぐ空間。

ただ一箇所、眼下の米代川から鷹巣の街が見晴らせるように北側の樹木がきれいに切り払われている。

そして、鷹巣の街の背後に縄文人も信仰の対象としたかも知れぬ鷹巣の象徴、白神山地の駒ヶ岳・田代岳が見渡せるように整備が進んでいました。

私には、以前の高い森に包まれているストーンサークルの方が好きですが、縄文時代はどうだったのでしょうか……

世界遺産登録推進の遺跡整備のため、あまり遺跡の状態を変化させ、固定化した考えの下に遺跡が整備されると

かえって「縄文をイメージすること」の妨げになると思うのですが……

ちょっぴり、あまりいらわず、そっとこのままにしておいてほしいと。





環状列石 A



環状列石 C を取り囲む掘立住居群跡



環状列石 C (左半円)



環状列石 D



環状列石 A の北端からながめた米代川(中央 緑の帯)と鷹巣の市街地
その後ろにういてみえる白神山地 駒ヶ岳と田代岳



台地の北側部にある環状列石 A

南側からながめた環状列石 A 樹木が切られ、北側がオープンになっていた 2009.9.7.



台地の南側最奥部にある環状列石 D 2009.9.7.

11-2. 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪 2009. 9. 7.



9.7. 早朝 鷹巣の病院へ定期健診に行くと言う宿の主人の車に便乗させてもらって 鷹巣へ
2000年9月に一度訪れた縄文のストーンサークル 鷹巣 伊勢堂岱遺跡を再訪する。

北東の鹿角・大館の山間を流れ下ってきた米代川が鷹巣で西へ方向を変えて能代に注ぐ。この鷹巣の市街地や米代川の南の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港の西の米代川が南から北へ流れてきた阿仁川が合流する地点に隣接する河岸段丘の上に伊勢堂岱遺跡がある。この空港開設の取付け道路が作られる過程でこの遺跡が発見され、今も調査が続いている。
ストーンサークルの周辺を取り囲んで、掘建て柱建物が出土し、ここで 弔いの祭りを行っていたことを明らかにした遺跡である。世界遺産登録を目指す遺跡群のひとつとなっている今、さらに何か新しいことがわかったのか、また遺跡の周辺はどうなっているのか、また、背の高い樹木に取り囲まれた静けさの中にある遺跡が印象的で、いまま、その静けさはもたれているのか・・・
そんな事が知りたくて、再度鷹巣伊勢堂岱遺跡を訪ねました。

伊勢堂岱遺跡の丘陵地の北端をすり抜けて 秋田内陸縦貫鉄道が走り、すぐ横の平地に「小ヶ田駅」がある。
当初、伊勢堂岱遺跡の丘陵地を西から横切って東側の丘陵にある空港へまっすぐ取り付け道路が予定されていたが、遺跡の丘陵地の下を迂回して空港へ向かう道路が完成しているほかは以前と変わらず以前訪れ

「伊勢堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。
道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、自分たちの祖先が集うこのような環状列石の墓を築き、折にふれ、祭りをを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。このストーンサークルを中心とした祖先との絆、集落の人たちとの絆、それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。
誰も居ない森の中、唯一人立っているとひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る」

2000. 9. 15. 伊勢堂岱遺跡にて
和鉄の道 「秋田・青森 縄文のストーンサークル
- 縄文人の心を考える これも Iron Road -」より



た時のままにのどかな田園風景が広がっている。
遺跡の中も高い樹木に包まれた静かな環境が維持されて以前と変わらず、気持ちの安らぐ空間。唯一箇所北側の樹木がきれいに切り払われ、米代川から鷹巣の街そしてその後ろに縄文人も信仰の対象としたかも知れぬ鷹巣の象徴 白神山地の駒ヶ岳・田代岳が見渡せるように整備が進んでいました。私には、以前の高い森に包まれている方が好きですが、縄文時代はどうだったのでしょうか・・・
世界遺産登録候補の名の下に、あまり遺跡の状態を変化させると僕はかえって「縄文をイメージすること」の妨げになると思うのですが・・・



環状列石 C を取り囲む掘建て建物群跡

【参考】 和鉄の道 「秋田・青森 縄文のストーンサークル - 縄文人の心を考える これも Iron Road -」

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/jstlaa07.pdf>

鷹巣 伊勢堂岱遺跡を9年ぶりに再訪 2009.9.7.



「伊勢堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさ の中にある。

道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、
自分たちの祖先が 集うこのような環状列石の墓を築き、
折にふれ、祭りをを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。

このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人たちとの絆
それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。

誰も居ない森の中 唯一人立っていると
ひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る」

2000.9.15. 伊勢堂岱遺跡にて

和鉄の道「秋田・青森 縄文のストーンサークル
- 縄文人の心を考える これもIron Road? - 」より



北秋田市鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 周辺図





国指定史跡 伊勢堂岱遺跡



遺跡の概観



配石遺構



配石遺構

伊勢堂岱遺跡は、縄文時代後期前期（約4,000年前）の大規模な集居の跡です。集居の遺構として、環状列石や土盛、環状土盛、竈など、さまざまな遺構・新りの施設が確認されました。集居に使われたと思われる遺構も、数多く出土しています。

縄文時代の精神文化や社会組織などを解明する上で重要な遺跡であることから、平成13年1月には、国の史跡に指定されました。

遺跡は20haの広さを持つ堂状台地の中央にひろがっており、環状列石をはじめとする集居・新りの施設は、台地北部を中心に展開されています。



遺跡の概観と環状列石の位置
4つの環状列石が示した遺構に示されています。



環状列石



環状列石



土盛



い せ どう たい い せ き 伊勢堂岱遺跡



▲環状列石A



▲環状列石C



▲環立柱建物群



▲遺跡の範囲

※赤線の内側が一般公開部分



▲石 (捨て場)



▲石

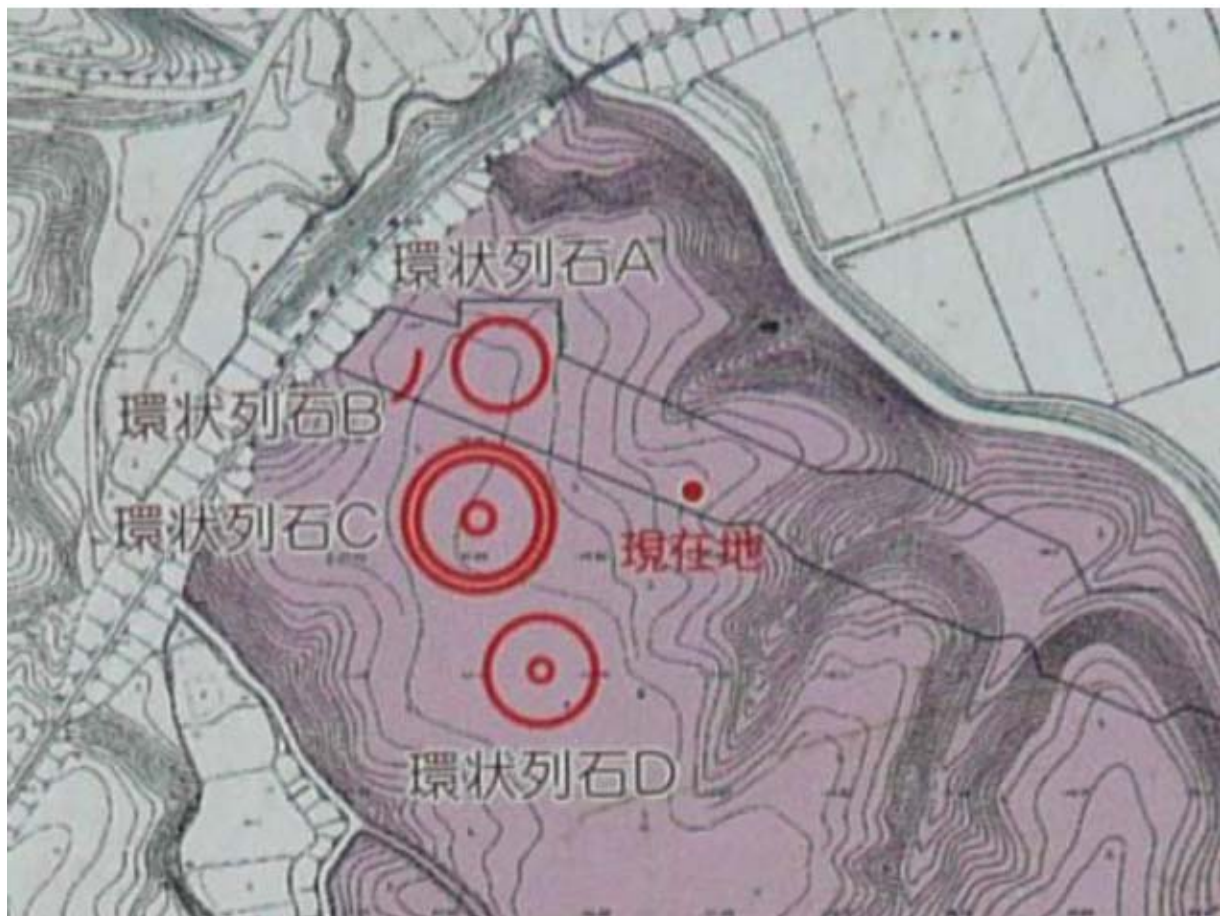


▲遺構

伊勢堂岱遺跡は、大館能代空港のアクセス道路予定地で発見されました。平成7年と8年に、秋田県埋蔵文化財センターにより道路建設予定地約7,000m²の発掘調査が行われ、縄文時代後期前半(今から4,000年前頃)の環状列石をはじめ、多くの土器(お墓)や建物跡が見つかりました。祭祀にかかわる遺物も数多く出土しており、「お墓」であると同時に「祭り」や「祈り」をとり行なう大規模な葬祭の場であったと考えられています。

縄文時代の墓制や精神世界、社会構造などを解明する上で大きな手がかりとなる遺跡であることがわかったため、秋田県では平成8年11月にアクセス道路のルート変更と、遺跡の現地保存を決定しました。

これらの経緯を踏まえ、平成9年度からは鷹巣町教育委員会が主体となり、遺跡全体の範囲を確認するための発掘調査を行なっています。遺跡の範囲は台地全体に及んでおり、約7,000m²ものひろがりを持つと推定されています。





台地の 中央部より西側 右 環状列石A 左 環状列石 C & D 2009.9.7.



台地の 中央部より東側 左 環状列石A 右 環状列石 C & D 2009.9.7.



台地の 中央部より東側 左 環状列石A 右 環状列石 C & D



環状列石 A



環状列石Cを取り囲む掘立住居群跡



環状列石 C (左半円)



環状列石 D



台地の北側部にある環状列石 A

南側からながめた環状列石 A 樹木が切られ、北側がオープンになっていた 2009.9.7.



台地の南側最奥部にある環状列石 D 2009.9.7.



環状列石 A の北端からながめた米代川(中央 緑の帯)と鷹巣の市街地
その後ろにういてみえる白神山地 駒ヶ岳と田代岳



台地の北側部にある環状列石 A







近代用の河津台地に建設して設立したやの町国鉄再石
鉄山産産 伊勢重産産 2008.8.7.

